

# ほん屋

2016(平成28)年7月

1号店

店主：仲村・久高

「脳三部作」「恋愛脳」「夫婦脳」「家族脳」と  
「運がいいと言われる人の脳科学」  
(黒川 伊保子)



機械システム工学科  
准教授 津村卓也先生

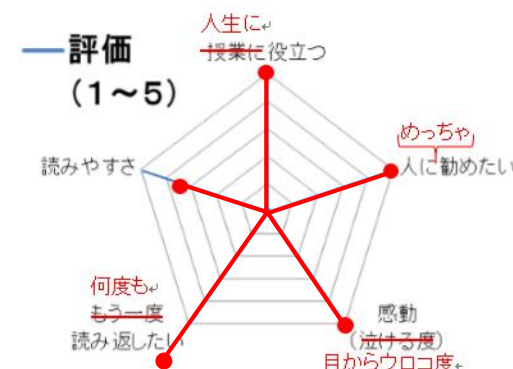


昨年秋のキャリア講演会で卒業生が「本を読むこと」の効用について話されたのをきっかけに、「脳科学」をキーワードにいくつかの書籍をピックアップして目を通してきた。その中でも特に勧めたい本について、今年度学生図書として図書館で購入をしていただいたので、ここに紹介をさせて頂く。

本シリーズ(個人的に勝手に「脳三部作」とシリーズ化させている+「運がいいと言われる人の脳科学」)の作者は、巷で西のお茶大と呼ばれる超難関理系女子大を卒業後、今話題のAI関連の研究として「語感」の研究をされるうちに、「語感が男女で全く異なる」ことが明らかとなり、この事実を論文として公にするだけでなく、一般の人々にも広く知らせたいという気持ちから、ハードカバーや文庫版として出版されたものである……と聞くと、めっちゃ硬い文書で読むのに四苦八苦する印象を持たれるかもしれないが、「エッセイ」としてさらりと読める形に仕上げたのである。金曜日に借りて週明けには読み終わられるはずである。読み方として、「恋愛脳」だけを読んで「やっぱり男女は相容れないのか…」と愕然としてしまうのはNG!で、最低限「夫婦脳」をセットで読んでいただきたい。

私自身、一昨年の帰省時に『冷蔵庫のエピソード』と全く同じ状況に陥り、夫婦仲が「修復不可能か?」という心境になったことがあるが、それまでに「脳三部作」を読んでいればなあ…と読み終わってから深く反省したことがある。(詳しくは、本を読んでくださいね)。

本学の構成員(学生だけでなくすべての教職員)全員が、一度は目を通していただき、自分とは異なる性を持つ人々(異性)がどのように世界を認識しているのか…について理解を深めて頂ければと考える次第である。(みんな読んでね~!)



前期期末試験まで... 残り23日

7月11日(月)時点

試験前の日曜日は図書館開館しています!  
スケジュールを立てて、友達と誘って図書館で勉強してみはどうでしょうか?  
快適に勉強でき、参考書なども豊富に揃っています。わからないことがあったら、  
図書館アルバイト学生に聞いてみていいですね!(教えられる範囲なら...笑)

延滞者へ告ぐ

延滞している本がある学生は、早めに返却してください!また、本を紛失した場合は、図書館カウンターに相談に来て下さい。

沖縄高専図書館の本や雑誌は、大切な財産の一つです。

店主のつぶやき

梅雨も明け、最近暑いですね...。そのせいでやる気ができません(笑)クーラーの効いた図書館で読書したり、勉強したりするのもいいですよ!ぜひ、図書館に来てみてください!

## 新コーナー「あの人が紹介する本」

面白かった、感動した、勉強になった、誰かに読んでもらいたい、もう一度読んでみたいなど、あらゆる本をこの『ほん屋』で紹介します。

本を紹介してもらうのは...「教職員」と「学生」です!!学生が訪ね、印象に残った本やおすすめしたい本などを聞いてきます。

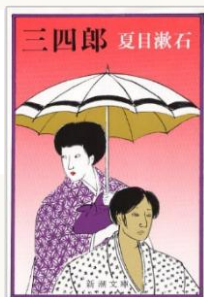
この企画は、1ヶ月に1回程度行い、色んな人に色んな本を紹介してもらい、多くの学生や教職員に読んでもらいたいと思っています。記念すべき第1号の紹介者は本校教職員の2名です。2人の紹介する本に興味がありましたら、是非、読んでみてくださいね。

次の紹介に向けてあなたのところに訪れるかもしれません!紹介したい本を探してみてください。また、紹介したい本があるという学生や教職員がいらしたら、図書館カウンターまでお越し下さい。たくさん本が紹介できるよう、図書館職員一同がお待ちしております♪



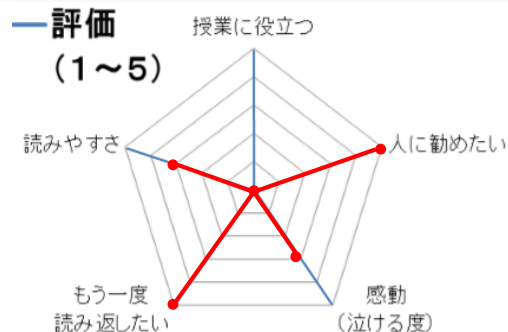
寮務係職員  
指導員 當山弘さん

「三四郎」  
(夏目漱石)



図書館に3冊蔵書あり

- ・新潮文庫
- ・岩波文庫
- ・角川文庫



木訥でウブな三四郎が上京し、三つの世界に住むようになる。母親が住み懐かしい世界。学問の世界。聡明で美しい女性の世界。登場人物もそれぞれ個性的である。その世界を三四郎の視点で淡々と描かれている。三四郎が淡い恋心を寄せる女性「美禰子」知性的で自我が確立した女性と田舎者の三四郎との対比は、悲劇なのか喜劇なのかは別にして、誰もが一度は経験する青春の悩み、苦しみ、ときめき、喜びに思い出と共感を呼び起こさせる、青春小説の名作である。